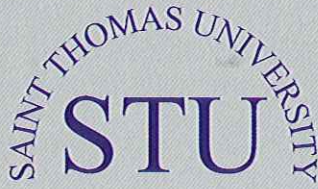


SAPIENTIA

英知通信vol.98



St. Thomas Aquinas Prayer;

Creator of the universe
You set the stars in the heavens
and cause the sun to rise and set.
Shed the light of your wisdom
into the darkness of my soul.

聖トマス・アクィナス大学国際協議会 (IC-USTA) 加盟宣言、英語名称変更 記念式典

One Body with Many Members

For just as the body is one and has many members, and all the members of the body, though many, are one body, so it is with Christ. For in the one Spirit we were all baptized into one body — Jews or Greeks, slaves or free — and we were all made to drink of one Spirit. Indeed, the body does not consist of one member but of many. If the foot would say, “Because I am not a hand, I do not belong to the body,” that would not make it any less a part of the body. And if the ear would say, “Because I am not an eye, I do not belong to the body,” that would not make it any less a part of the body. If the whole body were an eye, where would the hearing be? If the whole body were hearing, where would the sense of smell be? But as it is, God arranged the members in the body, each one of them, as he chose. If all were a single member, where would the body be? As it is, there are many members, yet one body. The eye cannot say to the hand, “I have no need of you,” nor again the head to the feet, “I have no need of you.” On the contrary, the members of the body that seem to be weaker are indispensable, and those members of the body that we think less honorable we clothe with greater honor, and our less respectable members are treated with greater respect; whereas our more respectable members do not need this. But God has so arranged the body, giving the greater honor to the inferior member, that there may be no dissension within the body, but the members may have the same care for one another. If one member suffers, all suffer together with it; if one member is honored, all rejoice together with it. Now you are the body of Christ and individually members of it. And God has appointed in the church first apostles, second prophets, third teachers; then deeds of power, then gifts of healing, forms of assistance, forms of leadership, various kinds of tongues. Are all apostles? Are all prophets? Are all teachers? Do all work miracles? Do all possess gifts of healing? Do all speak in tongues? Do all interpret? But strive for the greater gifts. And I will show you a still more excellent way. I. Corinthians 12:12-31

宣 言

私たちはキリストの教えを具現させるべく、聖トマス・アクィナスの学問に対する研究姿勢を範とし、その思想と教えに沿った学問の府を築くことを決意し、ここに聖トマス・アクィナス大学国際協議会に加盟し、大学の英語表記を Saint Thomas University of Osaka (STU) とすることを宣言いたします。

2007年1月16日

学校法人 英知学院
理事長 池長 潤

学長 小田 武彦

証 人
駐日ローマ教皇庁大使
アルベルト・ボッターリ・デ・カステッロ

IC-USTA 創業者
ヘラルド・ロチャ

Declaration

Today, on the 16th day of January, 2007, at Eichi University, we make the official declaration of our upcoming membership in the International Council of Universities of Saint Thomas Aquinas and the change of our English name to St. Thomas University of Osaka, in order to give fuller expression to the teachings of Jesus Christ in the spirit of St. Thomas Aquinas. We seek to establish a seat of learning based on his thought and teachings.

Chair of the Board of Trustees
H.E. Leo Jun Ikenaga

President of STU
Dr. Takehiko Oda

Witness:
Apostolic Nuncio to Japan
H.E. Alberto Bottari de Castello

Witness:
Founder of IC-USTA
Dr. Gerardo Rocha

英知大学を創立・発展させてきた諸先輩と恩人の方の後継者として、私は、今、理事長と共に、大学関係者を代表して、多くの卒業生を輩出してきたこの大学を存続させるだけでなく、大きく発展させるため、宣言書に、心をこめて署名いたしました。駐日教皇庁大使 Alberto Bottari de Castello 大司教様と、聖トマス・アクィナス大学国際協議会創業者 Gerardo Rocha 博士が、証人としてこの宣言書にご署名くださいました。

旧約聖書の「創世記」には、「神はお造りになったすべてのものをご覧になった。見よ、それは極めて良かった」と記されています。私たちは皆、神に望まれて誕生し、祝福されたものとして、この地球で生きております。「創世記」はまた、神が人間に、知恵と力を活用して、この地球をよりよい方向に発展させる使命を与えたとも書かれています。日本は今、少子化という初めての体験に遭遇し、あらゆる制度や組織が、未知の不安に脅かされています。これは教育界も同じです。しかし、不安におびえて縮こまっているわけにはいきません。私たちには、諸先輩の純粋な志をしっかりと受けとめ、神から与えられた能力を活用して、社会に貢献する使命が託されています。先輩方から引き継いだ、小さくとも光り輝くこの大学が、名実共に普遍的なカトリック大学となり、もっと社会のお役に立てる大学とならねばなりません。そのために、大学の英語名を St. Thomas university of Osaka とし、世界5大陸25カ国で人類に貢献し続けている世界的なネットワーク組織、聖トマス・アクィナス大学国際協議会 (IC U S T A) に、日本で最初に加盟することにいたしました。

英知大学の学生諸君。皆さんは、ご両親と中学校や高校の先生方によって、原石から磨かれ、宝石となってこの大学に入ってきました。学生となった今は、自分の力で自分を磨き、もっともっと光り輝く段階に入っています。私の後ろをご覧ください。私たちの大学 St. Thomas university は、五大大陸25カ国にキャンパスを持つこととなります。IC-USTA 加盟大学の学生は、海外の加盟大学への留学期間中、授業料を所属大学に払うだけで、留学先大学に支払う必要はありません。また留学先大学の授業に出て、レポートを書いて試験に合格すれば、成績が認められます。留学先大学で取得した成績と単位は、所属大学においても卒業単位として認定いたします。留学しない学生にとっても、国際的な教職員の交流や共同研究が促進されることにより、今まで以上に視野が開かれ、切磋琢磨する機会が増加することになります。

皆さんおめでとう。皆さんにはこんなに多くの自分を磨く機会が与えられたのです。どうかこのチャンスを最大限に生かし、チャレンジしていきましょう。しっかりと磨き、もっともっと光輝いてください。

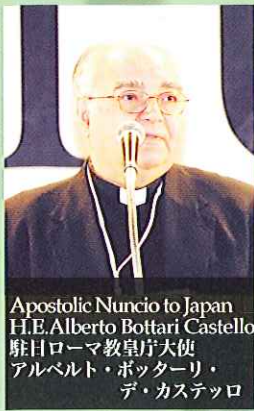
本日の式典に御臨席していただいた皆様に、段の上からありますが、心より御礼を申し上げます。IC-USTA 創業者のロチャ博士、IC-USTA 事務総長のマクファデン博士を始め、世界各地からおいでくださった皆様。St. Thomas university を激励するために駆けつけてくださったことに感謝申し上げます。また学校関係、企業関係の皆様、兵庫県、尼崎市の皆様、そして、大切なお子様を本学に入学させてくださった保護者の皆様、本当にありがとうございます。百合学院小学校の皆さん。この体育館まで、何度も練習に来てくださってありがとうございます。皆さんの素晴らしい歌声は、今日の式典に花を添え、今日集まってくださったすべての人の心を喜びで満たしてくれています。式の最後まで、よろしくお祈りします。

大学というものは、独りよがりでは成り立ちません。私たちの教育活動は、皆様ののご賛同とご協力があってはじめて価値あるものとなります。本学が、St. Thomas University of Osaka となった今こそ、これまで以上に、ご指導ご鞭撻、ご協力をよろしくお祈り申し上げます。

最後になりましたが、卒業生の皆様、本日は、大学の記念すべき日に駆けつけ、このような美しい花によって今日の式典を準備してくださり、ありがとうございました。卒業生に大切にされている本学は、本当に幸せだと実感しております。St. Thomas university of Osaka STU をこれからも励まし、見守り、育ててくださいますよう、よろしくお祈りいたします。

学生諸君、皆さんは、素晴らしい人々に支えられ、守られています。諸君が、この素晴らしい環境の中で精一杯自分を磨き、光り輝くことで、世界に貢献できる人間となってくださることを期待して、式辞とさせていただきます。

小田 武彦



Apostolic Nuncio to Japan
H.E. Alberto Bottari Castello
駐日ローマ教皇庁大使
アルベルト・ボッターリ・
デ・カステッロ

ローマ教皇庁駐日大使 カステッロ大司教様からの祝辞

本日、英知大学が英語表記を St. Thomas University of Osaka (STU) に変更され、聖トマス・アキナス大学国際協議会への加盟宣言を記念する式典にお集まりになられた皆様方の前で、お話させていただくことを光栄に思います。聖トマスはイタリア人であり、私もイタリアの出身ですので、英知大学が聖トマスの名前をもち、聖トマスが英知大学の後援者となることを真にうれしく思います。教皇庁大使の仕事は、日本においてローマ法王ベネディクト16世の代理を務めることです。私は日本のカトリック教会で法王の代理として、また天皇陛下と日本政府に対しては教皇庁大使としての任務を帯びております。私は北イタリアのトレヴィーゾ出身で、2005年に教皇庁大使として来日する前は、エクアドル、シリア、コンゴ、アメリカ、リベリア、ギニア、シエラレオネ、ガンビアで教皇庁大使の任についておりました。

聖トマスは偉大な神学者であると同時に、教育者として著述家として、人間性と神の恩恵と理性と信仰が融合することを示された方です。それは、生涯をイエス・キリストの教えに従って生きていこうとする者にとっては手本となるものです。聖トマスはナポリの高貴な家庭に生まれ、19歳でドミニコ会に入りました。会が聖トマスのパリへの留学を決めたとき、両親がこれに反対して外に出られないようにしたため、ほぼ2年間、

自宅に軟禁状態になったのです。しかし、聖トマスの決意は固く、最終的には両親も彼の決意を受け入れたのです。聖トマスは類まれな学者に、また教育者になり、1323年には聖人に、1567年には教会博士に列せられたのです。聖トマスの場合とは違って、皆さんのご両親は皆さんが大学で勉強をしていることを喜んでおられるでしょう。しかし、これからの皆さんの人生には多くの障害が控えています。これから先、多くの困難に出会うことになるでしょう。特に大学を卒業して社会に出られてからは、ますますそのことを実感するでしょう。仕事や結婚などで決断を迫られることもあるでしょう。職場や社会でさまざまな競争にも直面するでしょう。社会での競争はますます激しくなっています。収入や生活様式での格差が大きくなりつつあります。そして、メディアはあらゆるところで人間の思考を制御し、われわれを消耗させようとしています。社会や、社会のなかで動くさまざまな力や、そのような力がどのような影響を及ぼすかを理解しようとするのが大切だと、私は思います。このようなことを考えたとき、自分の国以外の学生たちとコミュニケーションをもつことはとても重要です。そうすれば他の国の学生たちも自分の将来を心配し、そして、今生きている社会を理解しようとしているのだということに、皆さんは気づくでしょう。

社会は成功というものに非常に重きをおき、メディアはつねにスポーツ、ビジネス、科学、政治などの分野において誰が成功したかということをし、われわれに示します。しかし、どうか覚えておいてください。成功よりも「経験」の方がはるかに重要であることを。この大学で学び、先生方や友人たちと交流をもち、アルバイトをし、就職活動をするだけでなく、毎日経験することのすべてが、それが辛く悲しいことであっても、また、それが成功しても失敗しても、必ず何かで私たちを豊かにし、恵みをあたえてくれることになります。経験したことすべてが私たちの心を豊かにしてくれるのです。

人生に多くの選択肢があるということは、逃してはいけないチャンスもあるということです。先のことは誰にもわかりません。したがって、自ら下した選択がどうなるかは誰にもわかりません。それだからこそ、与えられた機会を逃さないで下さい。なにかに賭けることを恐れないでください。われわれが社会に挑み、理解しようとしたとき、また、人生の喜びや苦しみを経験したとき、われわれは、今までより強く、そして、賢明になっているはずで

す。未来に何が待ち受けているか誰にもわかりません、しかし、私たちがこの世のかなたに目を向けるとき、そこには、神様が、いと高き神様がおられることをわれわれは知っています。神様の御心はわれわれすべての者への深い愛で満たされています。困難な選択に直面したとき、また、どうしたらいいのかわからなくなったとき、どうぞ、イエス様に祈ってください。天使や聖トマスに祈って下さい。そして、あなたを導いて下さるように求めて下さい。お導きを求めれば、いつもわれわれに手を差し伸べてくださいます。

今日、英知大学は聖トマス大学国際協議会のお仲間になりました。そのことに対して、心よりお祝い申し上げます。さらに、カトリック大学としての今後のご繁栄をお祈りし、世界中の聖トマス大学との交流をもたれることを希望いたします。

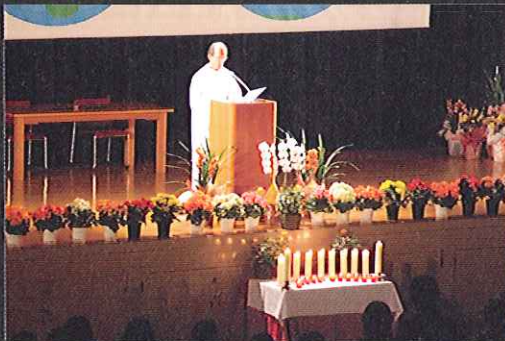
I am honoured to be able to address the members of the faculty and students of this university as you adopt the name "Saint Thomas University of Osaka," and become a member of the International Council of St. Thomas Aquinas. St Thomas Aquinas was Italian, and since I am also from Italy, I must say that I am very happy that you are taking his name and making him the patron of this university!...

St.Thomas became a great theologian who, as a teacher and writer, showed that human nature and God's grace, reason and faith, work together as we try to follow the teachings of Jesus Christ in our lives. He was born into a noble family in the Naples region, and at the age of 19 he joined the Dominican Order, and when they decided to send him to study in Paris his parents opposed this, and actually locked him in their home for almost two years to prevent him going away. He was determined to go, and finally they accepted his decision. He became a great scholar and teacher, was made a saint in 1323, and was proclaimed a Doctor of the Church in 1567.

Unlike St.Thomas, most of your parents I am sure are very happy that you are studying at university, but there are many other obstacles that you will face in life. There are many challenges facing you in the years ahead, especially after you graduate from university and enter society. You will have decisions to make about work, marriage and so on. You will face competition from others at your workplace and in society. Competition in society is becoming more intense; there is greater inequality in income and lifestyle; and the mass media everywhere is becoming more sophisticated in its efforts to control our thoughts and make us consume more. I think it is important to try and understand society, the different forces at work in society, and how we are influenced by these forces. Communication with students in other countries is very important in this. You will find that students in other countries too are anxious about their future, and trying to understand the society in which they live...

Since there are so many choices which we have to make in life, there are times when we must be willing to take a chance. We can never know ahead of time where our choices will lead us, so we must be willing to take a chance, we must not be afraid to gamble. When we try and understand society, and experience the joys and sufferings of life, the stronger and wiser we become...

Today as this university becomes Saint Thomas University of Osaka, and joins the International Council of Universities of Saint Thomas Aquinas, I offer my congratulations, and my good wishes for your future as a Catholic university, and for your increasing contacts with other universities around the world.





記念式典/式次第

第一部 追悼の祈り

阪神淡路大震災 12年目の追悼の祈り..... 学生代表
 来賓紹介

第二部 IC - USTA 加盟宣言 英語名変更式典

開式のことば

祈り

喜びの歌..... 百合学院小学校 2年生

詩篇朗読

聖歌

聖書朗読..... 学生代表

理事長挨拶..... 理事長

宣言文書 署名式

学長式辞

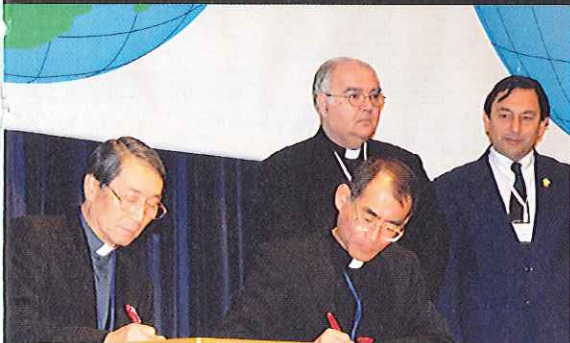
祝辞..... 駐日教皇庁大使

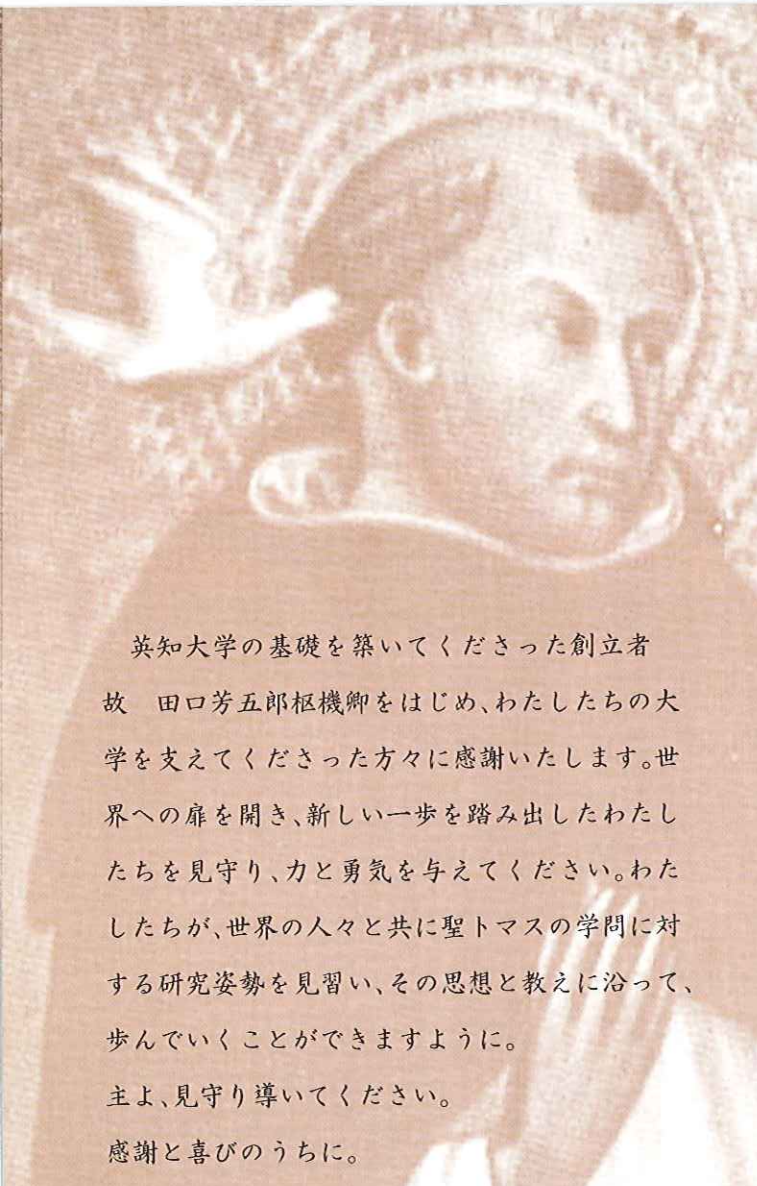
IC-USTA 事務総長

大学歌斉唱

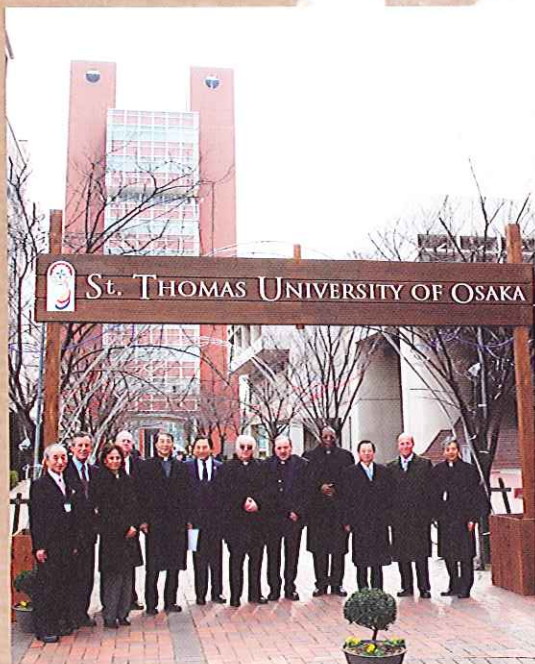
閉式のことば

合唱披露..... 百合学院小学校4年生5年生

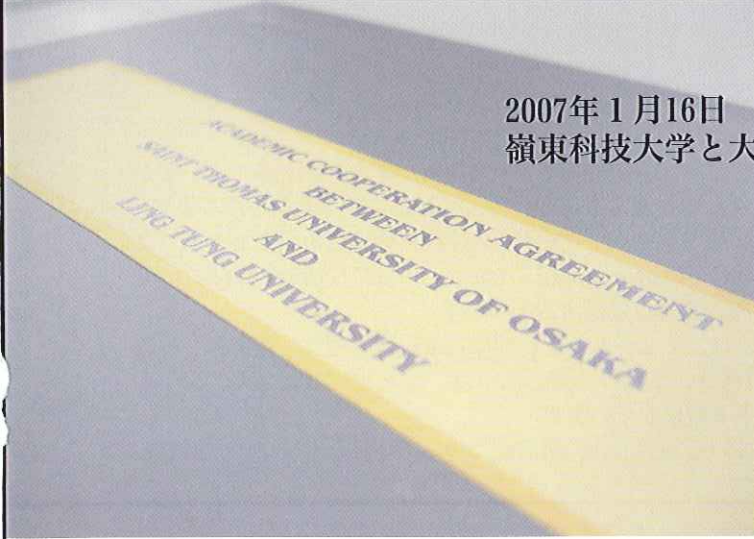




英知大学の基礎を築いてくださった創立者
故 田口芳五郎枢機卿をはじめ、わたしたちの大学を支えてくださった方々に感謝いたします。世界への扉を開き、新しい一步を踏み出したわたしたちを見守り、力と勇気を与えてください。わたしたちが、世界の人々と共に聖トマスの学問に対する研究姿勢を見習い、その思想と教えに沿って、歩んでいくことができますように。
主よ、見守り導いてください。
感謝と喜びのうちに。



2007年1月16日 台湾のLING TUNG UNIVERSITY
 嶺東科技大学と大学間相互協力協定を結びました。



嶺東科技大学
 校長 陳 振貴 先生



嶺東科技大学とは、協定の第一段階として5年間にわたり、学術協力・文化交流・文献や研究誌の交換・研究会等への招待・学生や教員の相互交流を進めていくことになりました。



Ling tung Rd., Taichung, Taiwan, R.O.C.

学 部

- 管理学部 (管理) Management.....
- 財経学部 (経済) Finance and Economics.....
- 設計学部 (情報デザイン) .. Design.....
- 情報科学学部 (情報技術) .Information Science.....

専 攻

- 経営マネジメント・EMBA・企業管理・国際企業・
 流通マーケティング・観光ビジネスマネジメント・実用外国語
- 財務金融・財務法律・保険金融・会計情報・財政
- 映像コミュニケーション・デジタルマスコミデザイン・
 流行デザイン・商品開発デザイン
- 情報技術応用・情報マネジメント・情報技術・
 ビジネス技術マネジメント

In Appreciation

本日は、ご多忙のなか聖トマス大学国際協議会加盟宣言記念式典にご参列いただきありがとうございます。皆様のご支援とご協力のおかげで本日の式典を無事に迎えることができましたことを感謝いたします。

皆様の前で宣言いたしましたようにこれからは 聖トマス・アキナスの理想や教えに沿ったカトリック大学の連合体である聖トマス大学国際協議会 (The International Council of Universities of St. Thomas Aquinas: IC-USTA) に恥じないよう日々の教育に邁進する所存です。

これから私ども St. Thomas University of Osaka は、2008年を目標に資格取得の充実・新学科への改組・学部増設・大学の日本語名変更と続けて参ります。これら一連の改革は、卒業生にとっても、在学生や、新入生にとっても大きな財産として役立つことと確信しています。

このような将来へ向けての変革を遂げようとしている本大学の、諸活動について今後とも皆様のご指導と御鞭撻を願う次第です。よろしくお願いたします。

2007年1月16日

St. Thomas University of Osaka
学 長 小田武彦

SAPIENTIA

英知大学の建学の精神は、その名の示すように「英知」(Sapientia)です。大学とは学問の研究における人間形成を目指すものですが、これが英知なくして行われぬという世界観に立つものです。学問の研究は真理の探究と獲得であり、この努力は真理の存在を前提とするものです。英知は学問研究の原動力であり、またいっさいの学問は究極において英知に結ばれているのです。すべての人間は真理の前に平等であるということを英知は教えています。ここにキリスト教的ヒューマニズムの基礎が存在します。学問研究において学生は、平等な真理探究者として尊重されます。英知大学は、このような建学の精神のもとに、世界の諸文化と思想を研究し、これによって人間の完成に資そうとするものです。英知 (Sapientia) は上智 (Sophia) と同義語であって、大学を英知を育て養う場、Sedes Sapientiae、真の Alma Mater としてとらえる苦心のあらわれです。『英知大学30年の歩み』(1993年発行) 参照

このような英知大学の基礎を築いてくださった方々の思いを引き継いでいきたいとの願いから、本学報『英知通信』は『SAPIENTIA』の愛称でこれからも表紙を飾りたいとおもいます。どうぞ今後ともよろしくお願申し上げます。



発行 2007年2月
編集長 田中功
発行者 小田武彦
発行所 英知大学 〒661-8530兵庫県尼崎市若王寺2丁目18-1
06-6491-5000 (代)
EMAIL info@sapientia.ac.jp
URL http://www.sapientia.ac.jp/

本書の内容の一部あるいは全部を無断で複写(コピー)、複製、磁気や光記録媒体あるいは全ての媒体への入力をお断りします。